

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 10 日	
所属部局・職	公益財団法人日本モンキーセンター 学術部 キュレーター
氏名	赤見理恵

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)						
新潟県笹ヶ峰、長野県地獄谷野猿公苑						
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)						
日本モンキーセンター 笹ヶ峰研修						
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)						
平成 30 年 9 月 26 日 ~ 平成 30 年 9 月 29 日 (4 日間)						
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)						
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ 松沢教授、杉山特定准教授、森村特定准教授、福島特定助教						
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)						
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。						
<p>今回の研修は、JMC としては7月の第1班につき2回目となる研修であった。全体的に天候が不順で、研修のハイライトであるはずの火打山登山では、高谷池ヒュッテで雨風に見舞われ引き返すことになってしまうなど、残念なことも多かった。一方で牧場周辺に生息するニホンザルの群れを約1時間にわたり追跡・観察することができ、ヒュッテのすぐ前でも2頭のハナレザルを見ることができた。地獄谷も強い雨ではなく、ニホンザルを十分に観察することができた。</p> <p>第1班に参加したスタッフから研修の概要やヒュッテの施設、周辺環境について十分情報を得てから研修に臨んだ。今回の研修にあたって、私自身は主に3つの目標を立てて臨んだ。</p> <p>① 自己流だった地図の読み方や登山、山スキーについて基礎を学ぶこと ② ヒュッテ周辺や地獄谷など多様な環境でくらすニホンザルを観察すること ③ 先生方や参加者、地獄谷野猿公苑の皆様と交流、情報交換すること</p> <p>主なスケジュールは右図のとおりであった。赤い部分が屋外での研修、青い部分が屋内での研修である。また、食事の準備や食事の時間にも、杉山先生をはじめみなさまからさまざまなことを教えていただくことができた。</p> <p>以下、写真とともに報告する。</p>						
		9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	
	4:00			起床・朝食		
	5:00			火打山登山 (高谷池ヒュッテで天候不良により引き返す)		
	6:00		起床		起床	
	7:00		朝食		朝食	
	8:00		牧場周辺のニホンザルの群れ観察		スキー講習	
	9:00				ヒュッテ清掃	
	10:00				移動	
	11:00	移動				地獄谷野猿公苑
	12:00				昼食準備	
	13:00				昼食	
	14:00		昼食		昼食	
	15:00	オリエンテーション	ドローン研修	休息	昼食	
	16:00	ヒュッテ周辺散策		ピバーク研修	移動	
	17:00			長野駅で解散。各自帰路へ		
	18:00	夕食準備	夕食準備		夕食準備	
	19:00	夕食	夕食		夕食	
	20:00	片付け・入浴	地図読み研修		ロープワーク研修	
	21:00		片付け・入浴	片付け・入浴		
	22:00	就寝	就寝	就寝		

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



京大ヒュッテ外観



杉山先生に教えていただきヤマブドウを採集



サルナシも採集。まだ堅かった



笹ヶ峰神社の鳥居。
今夏の台風による倒木が多かった。



美しい紅葉はツタウルシ。
触るとかぶれるので要注意だが、秋は見つけやすい。



ナガレタゴガエル(?)
牧場内の湧き水付近で見つけた。



一番初めに発見したニホンザル。
立派なおすだった。



私たちが距離をとり、振り向くオス。
ハナレザルではないかと思ったが・・・



近くに母子がいた。追跡すると
30頭近くを数えることができた



0才のアカンボウをつれたメスは
少なくとも4頭見た。



鉄条網の外から観察する鏡味さん。
この距離からならほとんど警戒されない。



鉄条網沿いを歩いて追跡した。
先頭は杉山先生。



コドモ。3才くらいだろうか。オトナたちが
森に入ったあとも、興味深げにこちらを見ていた。



この距離で観察できる。



リラックスして毛づくろいを始めた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ダケカンバの樹皮。よく燃えるので
たき火の火付けに使えることを学んだ。



屋外でのドローン講習。
雄大な景色を見ながら飛ぶことができた。



明日の登山に向けた地図講習。
ドローンで見たばかりの地形も確認。



朝5時台の登山口。
ライトがないと何も見えない。



途中で風雨が強まり、頂上まで登ることは
できなかった。雨で写真も少ない。



下山後の帰路でサルを探した。
フンはいくつか見るけることができた。



下山後、ヒュッテの水源も見せて
いただいた。



ビバーク講習。ツェルトのさまざまな
使い方を学んだ。1枚ほしい。



最終日朝の山スキー講習。シールを
初めて見て触った。ぜひ履いてみたい。



最終日は専用バスでヒュッテから
地獄谷野猿公苑まで移動。



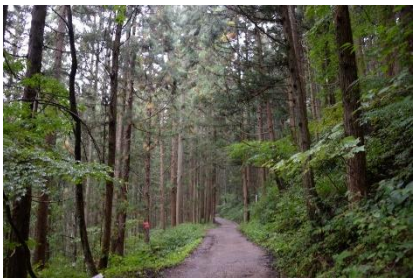
野猿公苑には2012年冬に訪れたが、
どこもとてもきれいになっていた。



駐車場は舗装されきれいなトイレができ、
入口前にはオシャレなカフェが。



野猿公苑へ続く道の入り口。脇にショップ
ができていたが残念ながら閉店だった。



野猿公苑へと続く道。すれ違った8人
中7人が外国人のように見えた。



野猿公苑に入るとロッカーが。100円が
戻ってくるのはうれしい。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



断続的に1、2頭が温泉に入っていた。
母親の腹につかまっていた子は大変そうだ。



「モンキー」を置いてくださっているが
残念ながら売れていないとのこと。



これだけ近づいても気に留めない。
母子のしぐさに笑顔になってしまう。

■火打山登山と地図読み研修、スキー講習について

火打山登山は、先頭を歩く松沢所長の適切なペース配分により、どこかで特に疲れたり、無理をしてしまうようなこともなく、歩くことができた。休憩時に地図を開くことで、昨晚学んだ地図の読み方を復習することができた。天候の変化や、途中でサルに出会うかもしれないなど多様なケースを考え、リュックの中は一眼レフや折り畳み傘、非常食などさまざまなものを詰め込んでしまった。そのため歩きながら必要な時に取り出すことができなかつたのが個人的な反省点である。一眼レフにいたっては、荷物の中で最も重いものだったにもかかわらず、美しい景色を前にしながら一度も使うことができなかつた。

スキーは趣味ながら少しだけバックカントリーを滑ることもあるが、雪面を登る際はスキーブーツで登ったことしかなかった。今回はじめてシールの実物を見せていただくことができたので、ぜひ雪面でどれくらい滑らないのか、実際に試してみたい。また、毎年冬に参加している白山でのニホンザル調査では主に和かんじきをはいて歩くのだが、雪が深い時はラッセルにとっても苦勞する。急な斜面を登らない場合はスキーを使うのもよいのではないかと思った。

■ヒュッテ周辺のニホンザルについて

ヒュッテ周辺では30頭以上の群れと2頭のハナレザルを、地獄谷野猿公苑では約160頭の餌付け群を観察することができた。ヒュッテ周辺の牧場のニホンザルは、目視できたのは約30頭であったが、サルたちが向かった森の中にすでに先頭集団がいるようだったので、50頭は超えるのではないかと思われた。また、この群れと同一かどうかは不明だが、ふもとに近い地域を遊動域とする、テレメーターを装着したメスを含む群れが近隣で目撃されたという情報や、火打山登山口近くでも群れを見たという情報も得ることができた。今後、モンキーセンターのスタッフが定期的に訪問することになれば、記録を残していくことで新しい知見が得られるのではないかと期待が膨らんだ。

■地獄谷野猿公苑について

地獄谷野猿公苑では、施設運営側の視点で見学し勉強になる点がたくさんあった。外国人観光客の多さとその対応、近隣観光施設との連携、自然環境を生かしたインタプリテーションなど、とても参考になった。一方で、特に秋は週末であってもサルが山からまったく下りてこない日があるなど、動物園とは違う苦勞があることも伺った。野猿公苑というと、来苑者がサルに餌付けすることができたり、サルとヒトの過度な接触が起こってしまうようなイメージを持っていたが、見学した限りでは地獄谷野猿公苑ではそのようなことはなく、来苑者はマナーを守り、良い関係が築けているように感じた。このような環境でサルを観察した方は、サルに対してどのようなイメージを持つのだろう。モンキーセンターで来苑者を対象に調査をしたことがあるが、野猿公苑でもぜひ調べてみたいと思った。

今後は日本モンキーセンターのさまざまな活動に、本研修で得た経験を活かしていきたい。

6. その他 (特記事項など)

本研修は京都大学霊長類学・ワイルドライフ・リーディング大学院のご支援を受けて実施されました。研修中は松沢所長、杉山特定准教授、森村アドバイザー、福島特定助教、参加者のみなさまにご指導いただき、有意義な研修となりました。厚く御礼申し上げます。また本研修の機会をくださった松沢所長、伊谷園長をはじめ、研修中の現場をフォローしてくれた日本モンキーセンターのスタッフに心より感謝申し上げます。